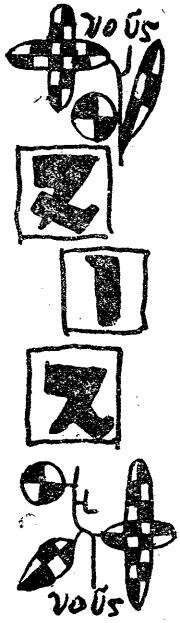

無課題

牛島義友

何でもよいから何か書いてほしいという注文ほど人を悩ますものはなかろう。子供が何か頂戴と言うとお母さんは棚からお八つを出して下さるが、こんな調子で何か書いて下さいとたのめば即座に何か出てくれば編集者も執筆者もさぞらくな事であろう。ところが、この何か書いてと言われた時ほど苦しい事はない。平素いかに蘊蓄している賢者だとて、さて何かと言われるとまごつかれるに違いない。このヌース欄は賢者の言を拝聴さしてもらう欄かもしれないが、題がなくてはいかなる賢者もたわ言をのべるしか出来なかろう。

口の重い人だって人から問を発せられたら何か答えるに違いない。発表さすためには問が必要である。自分の心の中に問題が発生すれば、それを解決せんとの意欲が起り、大論文でも大創作でも生れてこよう。しかしそれよりも手っとり早い自己表現は相手から直接質問され、問題を投げかけられる事である。子供達の学習がこの形で展開するのが一番簡単ではなかろうか。教育でも古い形には問答形式によるカテキズムが行われていた。教師が一人で組織的な講議をし、学生がたゞノートをとるというものよりも古い問答形式の方がはるかにすぐれた教授法であった。プラトーの哲学はこのような対話形式で思想が展開しているし、今日の学校に於ける討議法に於いても問答形式が基礎となっている。

又、今日問題解決の学習が教育に於いても特に重要視されている。即ち、過去の記憶的な学習、即ち生活に必要な原理や基礎知識を暗記さすやり方よりも、人が生活をしている間にそう遇する問題といきなりとりくみ、それを如何に解決さすかと努力さす学習の方がはるかに大切だといわれている。このような場合に第一に必要な条件は子供が問題を持っているということである。その問題は教師から課題として投げられる事もあろうし、自分が生活や思索をつゞけているうちに問題として感ずる場合もあろう。とに角問題意識がなければ解決活動も自己表現もはじまらない。

ところがこの頃は無課題の保育や教育がはやっているらしい。自由遊びにもその傾向が強いし、描画の場合に絶体に課題を与えてはいけないと主張する人もあるらしい。しかし課題のない単なる子供の遊びが保育といえるだろうか。これという目標も計画もなく、たゞぶら〳〵と時間を過す——これは多くの

大人の人の過す遊び方であり、一服吸う時の雑談の形式であるのが保育の中心だとしたらとんでもない話であろう。小学校ならば一定の授業時間があるから中間の休憩時間はこのようなぶら〳〵、ぐず〳〵で時間を過してもよろしい。しかし幼稚園の自由遊びはそんなものではないはずで、幸い幼児の遊びにはもっと積極的に作り出す力、表現したいとする意欲があふれているので、特にお節介しなくても創造的な活動を展開してくれる。しかしこの場合、子供自身の中にその時その時の課題をもっており、それの解決としてのトンネル掘りや、自動車ごっこが行われているのである。

課題がなくては積極的な行動がはじまらないが、この課題から解決までに余りに性急であってはいけない。教師の質問に応じて答える場合は問と答の間に時間的余裕がなく、生徒はたゞ自分の知っていたことを答えるだけである。単なる記憶の再現であり、新しいものを生み出す学習にはならない、課題によって自ら考え、新しい解決を発見するためには――そして又これが本当の問題解決である――時間的余裕が必要である。作文を書かす場合に時間のはじめに題を出してその時間内に書かすよりも、一週間前に題を出しておいて次の作文の時間にかゝした方が遙かによい作文ができる。子供はこの一週間中、その作文の課題だけを考えつゞけているわけではなく、否、殆ど忘れているかもしれないが、はじめに課題を出されていると、それからの一週間の生活経験が何らかの形でその課題と結びつき、作文を作るのに必要ないろ〳〵な着想や資料が集積されるのである。

画を描くにしてもいきなり課題が出されると、どうしても概念的な画で答える傾向になろう。これを画にしようという。モティーフがあり、それについていろ〳〵な想を練り技術を研究する事によってよい画が出来上ってくる。即ち、真の問題解決や自己表現や創造的活動を促すためには、性急な課題の出し方ではいけない。否、課題も人からあびせかけられたものでは本当に自分の問題という意識が不充分であって、出来れば自分の生活の中からわいてきた問題である事が望ましい。この問題が困難であればあるほど大きな解決活動が展開するであろう。

幼児の生活で自発的な創作活動を重要視する事は大切であるが、その結果課題の存在を忘れて了うのは大きな間違いである。課題があってはじめて真の学習活動、教育がある。たゞ子供を遊ばせておけばよい、子供の中から生れてくるものをたゞ待っていればよいのだというのでは保育とはいえまい。わざわざ幼稚園や学校にやって来ているのであるから如何にして早く効果の多い学習活動や創造活動が生れるかを工夫してやる必要がある。

× × ×

× × ×